

慶應志木会会報

慶應志木会(慶應義塾志木高等学校同窓会)

1990(春・夏号)



vol.3

1期生・2期生 座談会

我が農高… 家庭的雰囲気、強い団結心!

志木会の活性化を図ることを目的として、幾つかの期に分けて、それぞれの志木高校在学時の思い出を語る“座談会”が企画されるにいたりしました。

今回は1期生と2期生による座談会の模様です。

参加者：井上栄一、大谷照、櫻井栄三、櫻井英太郎、龍野和久、抜井宏寿、矢島醇一、(以上1期生)、鴻田一章、保田稜司(以上2期生)(アイウエオ順、敬称略)

司会 創立当時は私達の生まれる前のことですから、皆目見当がつかなくて非常に興味があります。まず、学校の様子をお聞きしたいのですが。

櫻井(英) まあ私達が1期生で入ったわけですが、その前に獣医畜産専門学校がありましたね。で、普通ならその獣医畜産専門学校が大学になるところが農業高校になった。募集人員は100人か200人位、それに満たなかったのが2年目から編入された方も3割位はいたんじゃないかと思います。

保田 そもそも農学部を作る構想があったわけですが、その農学部が駄目になり農業高校となったんですよね。

龍野 終戦後で教育そのものが新しい6334制度が実施され新制大学ができる流れのなかでしたから、大学受験して落ちた者や軍隊から帰ってきた者、旧制中学を終えて入ってくる人などいろいろな年齢の人達がいたから、ませた高校生が一杯いたといえるね。

抜井 もっとも農業学校といっても殆どの人

はやはり上に大学があるから、なんとか大学に入れるんじゃないかと、そういう希望、目的は持って入ったと思うんですよ。ところが入ってみると推薦はない、一般の人と受験をしたんですよ、我々の頃は。

井上 あのころは宮崎校長が法学部の教授でしてね、法学部への進学者ばかり多かった。だから僕が面接を受けたとき、「どこの学部だね。」って聞くの。「いや私はもうこの際音楽へ進む決意をしました。」って言うと、ほっとしたような顔をされて、「君ほんとかね、ほんとかね、大丈夫かね。」って(笑)、半ば喜んだような顔をしてましたね。

櫻井(英) それとね、もう一つの特徴は授業と実習が半々のウェイトをしめてたね、農業実習。その実習ってのが厳しかった。

櫻井(栄) 実習はほら代返がきかなかったし。

抜井 そもそも松永安左エ門さんが農地を慶應に寄付されたわけだが、あの頃は農地法という法律があって、耕作して一定の量を作らないと没収されてしまう。で、それを全部我々がやってきたということですね。

鴻田 1期は殆ど開墾だったね。あれはきつかった。

櫻井(英) 麦踏みもつらいが、開墾ってのはせいぜい一人一坪もできないでしょう。深さ



もあるし、三段堀りだ。手抜きはできないしね。

保田 夏休みに駆り出された、あの草取りがまたつらかった。

櫻井(英) そうそう、適当にうまくごまかせばごまかせるわけ。でも向こうは正直でしょう。生えてきちゃうんだよね、一週間とか一ヶ月すると。(笑) そうするとあいつら怠けたってばれちゃう。でも、隠し事はできないっていうのは教訓として残りましたけどね。

櫻井(栄) とにかく班ごとに割当てがあったから、ここはどの班がやったかというのが、すぐわかってしまうんだなあ。

忘れられぬ堆肥の感触！

矢島 それともう一つ今でも印象に残っているのは、あの堆肥ね。かごの中に入れて、かついでね。それを今度は手づかみでやるのね。その堆肥が何でできてるかっていうと、あの牛糞なんだよ。(笑)

大谷 馬糞ならまだしも、ちゃんとした肥桶でね。まともな作業衣も着ていないから痛くて痛くて。で、やっぱり手でつかむでしょ。そうすると、発酵しているからヌルヌルっとして熱いんだよ。それをもって

パタパタってやるわけ。
櫻井(栄) あの感触は今でも忘れないよ。(一同笑) だからね、うちのお袋が父兄会でね、まさか田村先生が隣にいるの知らなかったんだが、父兄と思ったらしく、うちのお袋がもう本当に、その実習のつらさをせつせつと言ったんだって。そしたらね、今度は先生の挨拶で、私が実習の田村ですって言われて、うちのお袋が顔から火が出たって。(一同笑)

保田 稲刈りも生まれて初めてのことで、初めは東で稲を持ってまっすぐ鎌を引くわけ。すると絶対切れない。ところが回して切るとよく切れるんだね。それを覚えた時はとても嬉しかったなあ。



大谷 農業実習のときも学生帽はみんなかぶっていたね。

鴻田 とにかく慶應に入れたということで自信ができたというか、油こったりした帽子にしても学生帽は欠かさなかった。今の高校生とよければ、帽子はかぶらない、学生服は着ないんだから。

櫻井(英) それにみんな割と家庭的で、一人一人個性的なのに、何か事をしようという時は良い事・悪い事別にして、よくまとまっていたとおもいますね。

牧場の馬でグラウンド整備

龍野 学校の施設だって決しているものではなかったから、そういう中で一つの基盤を作ったというのは誇れると思うね。

櫻井(栄) 僕は野球が好きだったが、志木に野球部がないので、当初日吉の野球部に入れてもらって久我山の練習に通っていたんですが、遠くて遠くて……。又、日吉の連中は、あの頃は生意気だったからね。それでこちらで「じゃ、つくろう。」という事になったのですが、グラウンドもないし、それこそ農業実習終わってそのままの姿で練習をしたのだから大変でしたね。

櫻井(英) 運動場みたいなのが少しあったんですけど、雑草がすごく石ころだらけで……。練習は出来ない訳で牧場から馬を引っぱってきて、後に農耕具をつけて草刈りから始めたもんですよ。それでちょっとライトフライとか上がると校舎にぶつかってしまう。(笑) そんな狭い所で練習して後半は、あっちこっちグラウンドを借りて歩いたね。

櫻井(栄) そうそう志木小学校とか、朝霞の本田技研のグラウンドとか。そんな風だったから三年の時、初めて一回戦突破した時は、うれしかったネ。

保田 僕は、バレー部を作ったんですけど、コートが田村先生のお宅の裏、まったくのヤブ地で、それこそ「開墾」して何ヶ月か掛け



てつくりましたよ。そう言えばその当時、大学に今の日本バレー協会の松平君がいた頃ですよ。「バックセンターの松平」と言えば大変なもんだったなあ。

櫻井(英) だから今の志木高は、各体育のちゃんとした施設が整っていらっしやる。当時は、何もない訳だからそれぞれ御苦労なさり…。



保田 みんな手作りだったもんね。

大谷 僕は、柔道をやってまして、天現寺の豊沢の道場に通ってました。それには事情がありまして、農高は大学へ行けないと言うので、塾の中で少しでも顔売って塾の方へ引っぱってもらえないだろうかという、そんなさもしい気持ちで豊沢の道場に通った事がある。その当時、格闘技というものは、学校の中で禁止令といって正式な部として認められなかった。

保田 駐留軍からね、当時そういう事が…。

強かった相撲部

櫻井(栄) だから龍野君なんかは、一人でね、なにしろやりましたよ、たった一人で。

龍野 僕は、元々サッカーをやっていましたが、当時エジンバラ大学を卒業されて、農高で指導されていた田村先生がおられて、英国のラグビーの話聞かされた事が、僕をラグビーに駆り立てた大きなものであった訳です。それで獣医畜産系の先輩のスギモトさんという大学のラグビー部の柱になっていた人を頼って日吉で練習をした訳です。志木にいる間には、クラブ設立まで人数の関係で出来なかった。

櫻井(栄) そう、ボールけて遊んでた。(笑)

櫻井(英) 俺なんかずいぶん付き合わされたもの。(笑)

矢島 でも、当時、運動をやるなんて事は、本当にゼイタクな事だった。だから人数も集まらなかった。

保田 そうそう、当時僕等バレー部で、とも

かく後輩を作らなければという事で、マネージャーをやっていた私とキャプテンの宇田川君で近辺の中学校をかたっぱしから歩いて「志木の慶應の農業高校



でバレー大会を行いますので是非参加して下さい。」って。あの時、六校集まった。それでトーナメントみたいなものを作って、乏しい予算の中からトロフィーを買って、優勝したチームに寄贈したりした思い出がありますね。もともと、「マネージャー」という言葉自体も、わからなかったもんな。(笑)

櫻井(栄) そう言えば、部の予算なんか、どうなっていたのかな？

櫻井(英) 野球部は予算あったな。それでボールとか、バットぐらいは何とかね。だけどグローブは自分で買わなくてはならなかった。

保田 それからね、もう一つ、相撲部のことなんだけど、2期で柳沢君てのがいましてね。

櫻井(栄) あー、柳沢君!?

鴻田 全国大会(青森)へ出たのは、志木高校始まってこのかた最初で最後でしょう。今日も呼んだんですけど忙しくて来れなかった。

保田 とにかく柳沢君は強かった。彼のおじさんが大相撲の相撲取だったことも関係しているのか、とにかく強かった。



一同 本当にそうだったね。

櫻井(栄) その頃を総じると、「勉強と実習と運動」と言うんで、三田評論に書いたけれどもいわゆる「両立」ではなくて、「三立」だって言ったんだ。若かったよ。

一同 そうだったなあ。(感慨深げに)

—談笑しているうちに思い出もどンドン湧き出て、話はずきることなく続くのであります—

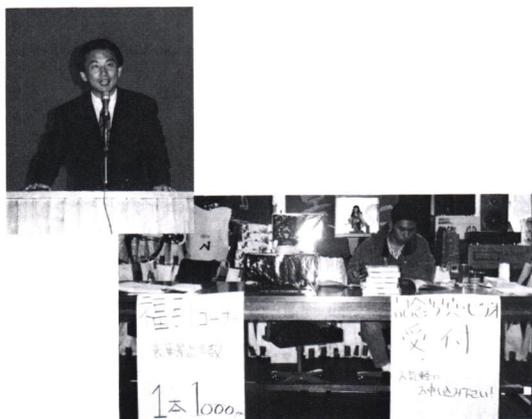
歳時記

収穫祭

昨年の11月4、5日に収穫祭が賑やかに行われましたが、青春を謳歌したあの思い出をもう一度！ということで、初めてOBも参画する許可を学校側からいただきました。

仲間を連れて、家族を連れて、広々としたキャンパスの中での過ごす時間は、リフレッシュでもあり本当に楽しい一時でした。

尚、二日間通しての福引大会は会場に歓喜やら悲鳴やらがこだまする悲喜こもごものうちに無事に終了し、また志木会が協賛しました上田昭夫氏の講演会も、大勢の方が集まって熱心に聞いておりました。



訃報

- * 宮崎澄夫先生(第2代校長) 平成2年3月29日
- * 手塚 豊先生(講師) 平成2年4月14日
- * 杉田幸男君(1期) 平成2年1月10日
- * 川口 晃君(1期) 平成2年2月19日

[お願い]

冠婚葬祭、入賞、独立開業、当選などの連絡コーナーを設けますので、どしどし各期の幹事までご連絡下さい。

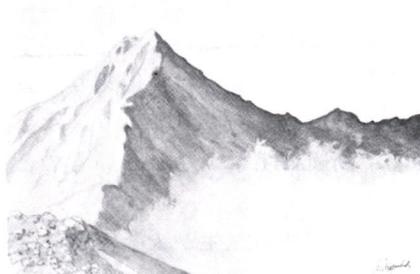
福引景品を提供して頂いた方は下記の通りです。どうも有難うございました。

福引景品提供者リスト

- 1期 櫻井英太郎、大谷 熙、四季会
- 2期 佐藤弘二、鴻田一章、宮本 明
- 3期 岩崎勝利
- 5期 宮田 勝、森田次次郎
- 6期 山田耕三、真野信裕、池畑明倫、富田和夫、秋元俊三、坂本和男、大中邦典、梅沢 勉
- 7期 多田 毅、菅原 武、上野文澄
- 8期 山田順彦、村越高弘
- 9期 藤中泰三、五老輝彦、戸塚 隆
- 10期 馬場絃二
- 11期 馬渕祥宏、桜井 馨、谷 雄史、吉川太久磨、野村 昭、山本久方、磯村吉孝、吉田勝幸、川瀬忠夫
- 12期 岡本 哲、品川雅貴、大道賢二、桜井聖剛、内匠屋 理、山本 望、寛 元則、亀山修明
- 13期 森 孝、千葉宗雄
- 15期 三野明洋、吉原良一、本橋重夫
- 17期 西村孝一、須永泰司、後藤康雄、小林隆行
- 19期 高橋道雄、草ヶ谷吉紀、中西廣策

展覧会

宮下校長先生が昨年の12月14日～22日に日本橋ギャラリー・フィガロで個展を開催致しました。



水彩 白根北岳(南アルプス)の雲海26.7×38.3



スケッチ 熊倉一雄氏(俳優) 24.2×27.2



スケッチ 福永陽一郎氏(指揮者) 24.2×27.2

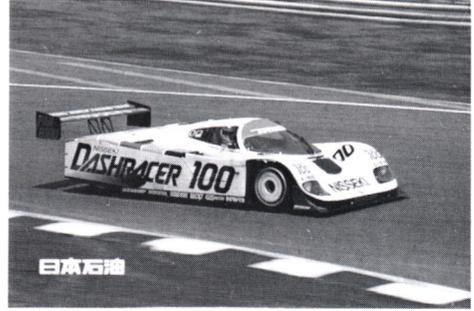
特別出品：山田季孝 志木高等学校教諭
 生徒たち：朝倉昇誠 井戸宗征 細井 勉
 佐藤 進 中村克之 松田 浩

主役はこの100。

HY-PRODUCT
TEC-FLUSHER
2S-B (米国特許権)

定りを科学した最新ハイオクオイル 日石ダッシュレーサー-100

日本石油株式会社 東京地方支店
取締役支店長 櫻井英太郎



都市再開発事業の企画並びに設計
不動産の売買並びに仲介



株式会社

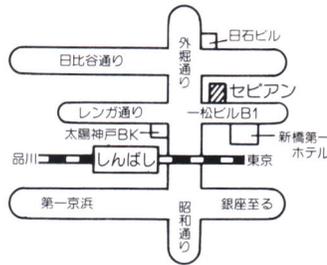
アバンテンドシステム研究所

一級建築士事務所

東京都中央区銀座7-3-13 ニューギンザビル
〒104 TEL.(03)574-1981代 FAX.574-1385
会議室 TEL.574-0948・0968

専務取締役 菅原 武 (第7期卒)

レストランバー **SEPIAN**



株式会社 新橋岡本
岡本 哲 (12期)

東京都港区新橋1-18-11
(一松ビルB1)
☎580-7688

婦人服専門店



〒110 台東区上野4-4-3
TEL.833-2011

桜井 聖剛 (12期)

* 2・3期合同親睦会開催についてお知らせ
2、3期幹事と今年10月の金曜日6時30分(日及び会場未定)に開催すべく打合せていますので、決定次第お知らせいたします。大勢の方には是非ご参加をお願いいたします。併せて会のニックネームも募るのでご協力の程を……

〈お問い合わせ先〉 2期 鴻田、保田、浅川、佐藤、中村 3期 岩崎、菅野

11期 「遊志会」も昨年は沖縄や三重県からも参加して頂き、和気あいあいの中楽しく行われました。

今年度の幹事は川瀬忠夫、磯村吉孝、桜井馨、吉田勝幸の4君に担当願っております。今年度の活動スケジュールは下記のとおり予定しています。

○1月25日(木) 新年会 交詢社に於て
宮下啓三現校長を始め私たちが教わった先生方7名が来賓として出席され、昔なつかしい話に花が咲き楽しい一夜でした。
出席者31名

- 3月17日(土) 第38回ゴルフ大会
- 5月23日(水) 第11回セミナー
にほんばし エ・ド
「資産運用について」講師 柳下和夫氏
- 7月28日(土) 隅田川花火大会見物
(家族同伴歓迎)
- 8月 第39回ゴルフ大会 場所、日時は追って連絡します。

- 10月下旬～11月上旬の土曜日
早慶戦野球観戦及び懇親会(家族同伴歓迎)
- 11月23日(祝)～25日(日)
沖縄ツアー及び第40回ゴルフ大会
当日は連休のため、割引航空券が入手しにくいので現在日時変更を検討中
(馬淵記)

12期 一昨年のホテルオークラからほぼ一年、11月8日(水)、12期60名が銀座に集まった。全員に案内したのだが、一ヵ月前の急な連絡だったのと、平日でもあったので首都圏からの出席者が多かった。もっと工夫して、次回は地方からも参加できるようにしたい。ご多忙な先生方も八名参加して下さい、思い出話で盛会にして下さった。「年に数回」との思いから「四季会」と名付け、クラス幹事を互選した。

世話人 野村・山本記

22期 一期会風景一



御菓子司 **もやはし**

東京 新宿

本店 ■ 新宿区新宿3-28-15
TEL 354-2331~3 (三越裏)

マイシティ店・メトロ店・小田急本館店
小田急ハルク店・新宿三越店

部活・同好会だより

バレーボール部OB会

『平成元年5月13日(土)の午後、銀座BRBクラブハウスはたくましい青年(?)達の集団により熱気があふれていた。』苺畑の跡にバレーボールコートができてから(現在はもちろんありませんが)30年になります。以来歴代の部長・監督のご指導のもと、それぞれの優れた戦績を残しており、又現役諸君も益々意気盛んに白球を追っているのが我がバレーボール部です。OB会活動としてはどちらかと云うと各年代ごとの活動が活発でしたが、先般の志木会発足を機に有志が声をかけあい久々の総会開催となったわけです。野口先生、萩原先生、伊藤先生、佐々木監督そして農業高校時代の保田先輩をお迎えして入山会長(11期)の下総勢53名の大会となりました。各員つきぬ自慢話のあと、バレーボール部で生活したことの幸せをかみしめながら再会を約して散会しました。その後7月29日、30日の東京六大学付属高校リーグ戦(於日吉)、8月の夏合宿(於志木)、そして11月5日の収穫祭における、立教高校招待試合等々常に現役諸君への応援という形をとりながらOBが集っております。会員もすでに150名を数え、今年も間もなく新会員を迎えようとしています。これからも、一回でも多く、一人でも多く会えるような、そしてそこから何かがどんどん生まれてくるような会を目指しつつ、年はとっていつまでも若き血をたぎらせていきたいと思っています。

(古井戸記)



スキー部OB会

私が、志木高スキー部に入部したのは、昭和44年、もう20年以上も前のことです。当時私は、グルノーブル冬季オリンピックで三冠王となったフランスの名選手、キリーにあこがれての入部であったように記憶しております。しかしながら腕前、いや足前の方は、一向にキリーの足元どころか、部長の後藤先生にも及ばず、いつも雪だるまになっていました。リフト小屋のおじさんには、『こんな上天気なのに、上の方は吹雪かい?』といつもひやかされていたものです。

以前、志木高スキー部OB会にも出席させていただきましたが、スキー部の皆さん、後藤先生を囲んで今度はぜひ、雪の上でのOB会といきたいものです。

シー・ハイル!

(中川 雅雄 記)

“年齢を越えてコミュニケーションのできる場所” “より充実したゆとりを発見できる場所” “より新しい情報の得られる場所”
 こんなスペースを銀座にと思い《銀座ディスティラリー》が誕生しました。
 ウイスキーは、英国より熟成樽のままはこばれて来た“Taplows”をご用意いたしました。



銀座ディスティラリー

中央区銀座7丁目2 コリドー街 TEL.573-4696
 西村 孝一 (17期)

MESSAGE

お 願 い

●維持運営会費について

今後の志木会の健全な運営には皆様のご協力が不可欠です。皆様にご理解いただける金額の設定及び振込回数の削減や事務の簡素化を慎重に検討しました結果、次の通りとさせていただきますと存じます。納入に関するお願いは別途ご案内致しますが、本主旨をご理解の上、その節はご協力をお願い申し上げます。

尚、ご協力をいただいた方にはネームプレートを贈呈する計画となっておりますことを申し添えます。

記

金 額 10,000円 (2,000円×5年分)

徴収方法 5年分一括徴収

※ただし、今回は初年度分の2,000円を既に徴収させていただいておりますので、平成4年度までの8,000円をご送金いただきたく別途ご案内致しますので、請求書到着の際はすみやかなご協力をお願い致します。

●「幹事連絡会」の設置について

今後の志木会の運営につき世話人会にて検討を重ねておりましたが、各期組織の活性化を図るため「幹事連絡会」を設置することとし、議長に藤中(9期)、事務局長に西村(17期)が選任されました。

この「幹事連絡会」の役割は、

- ・志木会の方針、企画等の会員への伝達
- ・各地区における志木会支部の結成準備
- ・各期の名簿の見直し

・維持会費の徴収や広報活動等が主なところですが、各期幹事間の連携を図るため5期単位で1つのグループを結成し、それぞれ正幹事・副幹事を決め、その任期は1年交代とし、各期幹事が順番に受け持つこととします。

従って今後はこの正・副両幹事が責任をもって5期分を掌握することとなります。



初年度(平成2年4月～3年3月末)
正幹事 1期 6期 11期・・・
副幹事 2期 7期 12期・・・
2年度は、2期が正幹事となり、副幹事は3期に。翌年度以降は同様に交代。

歓 迎

●櫻井会長より一言

思い出深い志木での高校生活を終え大学生になられた皆様には、抱負と希望に満ち溢れた楽しい毎日をお暮しのこととお慶び申し上げます。

一昨年志木高が創立40周年を迎えるにあたり、OB会組織であります「慶應志木会」が結成され現在会員数は8千余名にのぼっております。

これからは新たな仲間として皆様とも団結し、会の目的であります会員相互の発展向上と親睦を図り、更には母校の発展に寄与して行きたいと念じておりますのでご協力の程お願い致します。

最後に、皆様のこれからの輝かしい前途を祝し、今後のご健勝を心からお祈り申し上げます。

●40期幹事

正幹事 税所篤史

「これからも同期の和を大切に作る所存です」

副幹事 井上晴生

「微力ながら会の為に頑張りたいと思います」

編集後記

志木高草創期の興味あふれるお話をお届けできました。順次、各期の思い出を掲載する予定で、着々と準備を進めています。

さて、志木高のルーツをたどっていきますと、校地を慶應義塾に寄付して下さった松永安左エ門氏に至ります。この方の存在がなければ、私達が志木に学ぶことはなかった訳です。最近、白崎秀雄氏の書かれた『耳庵 松永安左エ門』上下(新潮社)は、この先輩の偉大と福沢精神のかかわりをよく伝えていきます。(馬)

慶應志木会会報 1990(春・夏)●vol.3

平成2年5月20日発行
編集・発行 慶應志木会(慶應義塾志木高等学校同窓会)
〒353 志木市本町4-14-1
発行人 櫻井英太郎
印刷 (株)精興社